

三重大学 人文学部

法律経済学科

特殊  
講義

「協同組合論」



甲斐 淳一／生活協同組合コープみえ桑名・四日市地域統括部長

### 消費者と協同組合

第5回（10月31日）：受講51名（受講生41名・聴講&スタッフ10名）

協同組合原則の「コミュニティーへの関与」（第7原則）に関わった協同組合の役割を実践的な取り組みから紹介する。生協は様々な社会的な課題を活動や事業で解決を図ってきた。時代や地域ごとに課題は異なる。組合員一人ひとりの願いも異なる。共通している「よりよいくらし」の実現は、人と人が助け合い、つながり、協同すること、生協はそれを実現するための手段である。

#### 【講義の主なポイント】

- ・生協は消費者の「共通のニーズと願い」を実現するために、自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。コープみえが、どのように誕生してきたか、その時代背景と創始者の思いがある。
- ・そして地域にあった4つの生協が合併し組合員や地域のためにできることがひろがった。子育て世代や高齢者支援の活動が、事業や組合員活動として地域の中で組合員が中心になってすすめている。東日本大震災の復興支援活動も被災された方々に寄り添いながら組織として継続している。環境保全の取り組みなど持続可能な開発目標（SDGs）を事業と活動で推進している。
- ・事業では、共同購入や店舗、共済、福祉などをおこなっている。職員は組合員と同じ目線でのコミュニケーションを大切に、「組合員にとってどうか」を考え行動している。商品の企画要望や開発、「声カード」など組合員の声を大切にしている。
- ・組合員と生産者・メーカーが交流し合うことで消費者の想いと、作り手の努力をつなげることができる。生協キッチンを通して組合員と生産者の距離を縮めるだけでなく組合員にとって食育の機会にもなっている。
- ・生協だけで解決できない地域の問題は、行政や諸団体と一緒になって解決をめざす。地域の団体と連携して一人暮らしの高齢者への食堂を始めた。地域の方に喜ばれ、地域の団体との距離も縮まり、生協への理解も深まった。
- ・生協の事業は、消費者運動からつながってきている。よりよいくらしの実現は、人と人とのつながり、協同の力で解決する余地はまだある。

## 第2回講義…受講生の感想レポート（一部抜粋）

### Aさん（2年生）

前回、生協での取り組みなどを知ることができましたが、それに加えてさらに生協の事を学ぶことができ、さらに地域のために役立っているんだと改めて感じる事ができました。地域の産物を使って商品を開発したり、それを紹介するカタログを作ったり、声かけを月ごとに意見を聞いて改良した商品を開発しようと試みたりと、とても地域と密着している事が、そのサービスが築けるのは大切だと感じます。更に印象に残ったのは生協キッチンという取り組みです。組合員と生産者が商品を通じて交流する事ができる場であり、食に関しての知識が高まったので、コミュニケーションの場としての役割も大きいと思います。お互いにとってとても良い事だと思います。単独ではできなかった事が、こうして人と人とのつながりで可能にしているという事は現代においてとても大切な事だと感じました。

### Bさん（3年生）

子育て支援の取り組みがすごかったと思いました。持続可能な社会を作る上で、たくさんの子どもの存在は欠かせません。しかし、現代で子育てをすることは簡単なことではありません。女性の社会参画が進み、働きながら子育てをする人が増えてきたからです。その様な女性にとって、安心して子どもが育てられる環境があるのは、素晴らしいことだと考えました。

また、組合員の立場に立って考えているのだと感じました。普通のお店では叶えられないけれど、COOPなら叶えることができるのだと考えることができました。組合員あてのCOOPだからこその事だと思います。

まとめにあった、「消費者が求めるものは商品だけでなく、人とのつながり」という言葉が、いいな、と思いました。どのような形であれ、人とのつながりは大切にしなければなりません。

### Cさん（2年生）

商品の配達サービスは、買い物に行く時間や体力が足りない人にとって役立つものだという認識はあったが、それだけでなく高齢者や子どもを見守るという面でも良いサービスだということが分かった。特に、高齢者はこれから更に増加して高齢者だけが暮らす家も増加すると考えられるので、配達と同時に様子を確認するというのは今後需要が高まっていくと感じられる。また、高齢者にとっても定期的に人と話す機会があるのは良いことなので、グループはまさに地域に根ざしてそこで暮らす人を豊かにできる組織である。加入率は意外にも低かったのですが、生協の魅力がもっと多くの人に広まってほしい。生協は人と人とのつながりを大切にしているので、現代の私たちに必要は組織だと感じた。

## Dさん(2年生)

- もともと消費者のニーズにこたえていくために自発的に結成された組合が、さらに、目標を達成するため組合同士が手を組んだ。組同組合・生活協同組合コープみえは、組織をつくる人たちが、社会的役割を担っているという、地域に貢献しているという意識高いグループがあると感じました。またその姿勢がコープみえの理念ビジョンと明らかに見えて、いいなと思いました。
- 理念ビジョンにある「地域と協働して……」ということから、より地域の人たちのニーズが分かるからこそ、子育ても高齢者支援にも力を使っているのだなと思いました。
- 組織を大きくするのは、出来ることも、利用してくれる人も多くなりそうだけど、大きくすることは、地域のニーズ・今まではこたえてこなかった小さなニーズにこたえることが難しくなってしまうかもしれないということもあり、バランスが難しいなと感じました。

## Eさん(2年生)

高齢者が増加していく中で、そのコミュニティの中での人と人のつながりはとても大事になってくると思います。そういったコミュニティの中に生協が存在することで、本来の意味が必要と知覚存在にたっていくのではないかなと思いました。

地域の人が抱えるニーズは実際に対話しなければわからない。そのニーズを早急に対応してかまわずに規模を拡大して、必要と知覚存在にたっていくと思います。そういう地域を確立していくの一番近しい存在が生協なのかなと感じました。

## Fさん(2年生)

生協と初め聞いたとき、大学生協の次に思い浮かんだのが地域にある生協だったので、私のイメージでは商品の販売をしていることしか想像できなかった。なので販売以外にも子育て支援や高齢者支援を行っていることを知り少し驚きました。支援などは地方の自治体が行うことを行っていると聞いていたので、生協も行っていることで、組合員の方が生活しやすく、身近なところで生活の支えになっているのだなと感じました。また生協は地域の組合員の方と話をする機会が多い分より地域に近い課題や要望にこたえることができるのだと感じました。SDGsに対応するかたちでプリントも作られていて、大学に入ってからSDGsについて学び考える機会が何度もあり、生協のSDGsについてもとても興味深かったです。

## Gさん(2年生)

2020年の新型コロナウイルスやSDGsなど、未来を見据えて行動することや  
ととも大切だと感じました。また、これをきっかけとして今起きている  
社会問題に立ち向かい目をつけることが大切だと思いました。

また、生協が成長し組合員が増えることで一人一人の声を  
届けることができるというのは他の場面では当てはまるなと感じました。

返品の話を聞いて、組合員一人一人の問題を解決しても

それが全体の利益につながるかどうか分からないと思いました。

ただ一人一人の声を聞くというのはすごく大事なことの2つ。

そのバランスが重要だと思いました。

## Hさん(2年生)

今回の講義を受けて、自分が住む三重の生協の成り立ちと

その取組について知ることができました。この協同組合論を

受講するまでほとんどSDGsを知らなかったのですが、

生協がSDGsに基づいて活動をしているのに自分の生活に

密着したところに深く関わっていることに驚きました。それと同時に

協同組合の目的を知るとは個々の活動への参加のきっかけ、

消費者として、又組合員として地域に貢献するきっかけのために

重要な事だと実感させられました。また、生協そのものに

関心、消費者としての組合員のニーズに合った立ち上がり

作り上げられてきた生協が、その規模の拡大とともに

組合員の声を取り逃がしてしまう矛盾が生じている問題が

あると知り協同組合という在り方の課題を感じました。

以上